

『セミたちの夏』

写真と文 筒井学

小学館



ミーン、ミーン、ジリジリジリ、
オーシツクツク… 今年の夏
も、セミたちの競演が賑やか
でした。セミの羽化を見たこと
はありますか？ 夏になると
地面に無数にあく穴、あれが
セミの幼虫が羽化のために

出てきた穴です。夕暮れ時、地面からはい出した幼
虫は手ごろな木の枝を探し、そこで羽化を始めます。

背中が割れて、茶色い体から出てくる成虫は薄緑色。
ロウ細工のようなその体はまだみずみずしく、自然の
神秘を見るようです。

セミたちが夏を謳歌し、異性を見つけて交尾、産卵を
して生を終えるまではたったの2週間。でも、その前
に土の中での6年（アブラゼミの場合）という長い幼虫
期間があります。地中での様子は見る事ができない
し、どんな生活をしているのか…全く知りませんでした。

『セミたちの夏』では、樹に産み付けられた卵が孵化
し、幼虫が成長していく様子も写真で説明してくれてい

ます。翌年の梅雨の頃、樹の皮の中で誕生を待
つ卵、もう目ができているのがわかります。そして
誕生の瞬間、樹の皮から1齢幼虫が顔を出します。

幼虫はぼとぼとと地面に落ちるそうです。落ちた
幼虫の大半は、待ち構えていたアリに捉えられてし
まうとか。命からがら地中にもぐり込めた幼虫だ
けが、小さい体で土を掘り進み、木の根っこにたど
り着いてその汁を吸って生きていくのだそうです。

全く知らない世界でした！

産卵は樹にするのに幼虫は地中で育つということ
がいつも不思議でした。この絵本で、どのように
地中に達するのかは、納得しました。でも、あんな
にセミがいて、その何十倍、何百倍もの卵から幼
虫が誕生するのに、どうして一度も誕生を見たこと
がないのでしょうか？ 木からぼとぼと落ちる瞬間も？

これは、ぜひ見て見たい！ 来年の梅雨時はぜ
ひ注意して、セミの赤ちゃん探しに挑戦です！

（小川）